

小山兄弟虐待死から20年

再発防止有志が祈り



兄弟を供養する地蔵の前で風化防止の取り組みについて話す菅原さん(右) 29日午前10時、小山市間中

小山市で2004年に幼い兄弟が思川に投げ落とされ殺害された虐待死事件から、9月で20年。市内の元民生委員ら有志は29日、供養のため現場近くに置かれている2体の地蔵に手を合わせ、兄弟の冥福を祈るとともに同様の事件防止への思いを新たにしました。

地蔵は新間中橋の南方、思川左岸の堤防上にある。匿名の人物が河川敷に設置し、10年ほど前に現在地へ移された。当初から同市西城南4丁目、元民生委員菅原清子さん(79)ら有志がボランティアで周辺の清掃などを続けてきた。

取り組みを知った同市南

飯田、石材クリーニング会社代表新田貢司さん(51)らが2年半前、手弁当で土台を整備しコーティングを施した。以来、高齢のため頻繁に来訪できなくなった菅原さんらに代わり管理を続けている。菅原さんは「おかげで花やおもちゃを供えてくれる人が多くなった」と感謝した。

この日は、虐待防止などの研究に取り組む東京福祉大大学院の佐々木隆志特任教授(67)が来訪。菅原さんや新田さんが取り組みの経過を説明した。

佐々木特任教授は「事件を風化させない取り組みには大きな意義があり、学生たちを連れていきたい。虐待は社会構造が生み出しており、防ぐ手だてが重要だ」と話した。

(佐藤洋)